女性研究者の仲間が増え、

ロールモデルが見つかる

野中 誉子



Advancing Technology for Humanity

【経歴)

京都工芸繊維大学にて機械工学を専攻後、チェコ国立トーマス・バチャ大学にて客員研究員として感性情報処理の研究に従事。帰国後、龍谷大学ハイテクリサーチセンターを経て、現在は湘南工科大学にて材料力学、複合材料工学特論などの講義を担当する一方、FRP製スポーツ用品の開発と評価、スポーツIoTの研究に従事している。

【現在の研究】

FRP (繊維強化プラスチック)を使用したスポーツ用品、主にサーフボードを対象とした機械的特性評価や、使用時の挙動・負荷のモニタリングなどを行っている。



博士研究員のとき、成果発表のために IEEE 主催の国際会議に参加することになったのが最初のきっかけです。入会すると参加費がお得になることもあり、研究室の教授から「1年の間に、たくさん国際会議に出すように」と言われ、何度も参加するなら会員になっておこうという軽い気持ちでした。

入会当初は会議参加だけが目的でしたが、お世話になっていた教授が国際会議を主催されることになり、それをお手伝いしたのを機にさまざまなご縁が繋がり、IEEE の国内外の集まりに誘っていただけるようになりました。

IEEE での現在の活動は?

テクノロジー分野で活躍する女性技術者・研究者の自立と連携を支援する WIE (Women in Engineering) というグループの役員と、CT (Consumer Technology) ソサエティ (旧 Consumer Electronics ソサエティ) の理事を務めています。 国際会議の運営や女性研究者らの支援、日本・アジアのプレゼンス向上に、微力ながら貢献したいというのがモチベーションになっています。

もともと私が関わっていたCTソサエティは女性が少なかったので、 当時の WIE チェアに「国際会議で WIE から賞を出して、女性研究 員をエンカレッジしてもらえないか」と提案したんです。そこから役 員にとお声かけいただき、現在は女性研究員同士が集まれる場を 作ったり、講演会の人選を行ったりしています。

キャリアの浅い時期から責任のあるポジションに就く機会に恵まれ、 色々な経験をさせていただいたこともあり、活動を通して Early Career Award という賞も頂戴しました。

国内の WIE の活動では、研究分野を超えて広く、深くつながることができ、日々を明るく楽しくエンジョイするメンバーにいつも勇気づけられています。

国際会議も、ただ参加するだけでなく主催側として関わらせてもらうことで、幅広い論文に目を通すようになったり、学会初心者の学生からベテラン技術者まで、経験や目的の異なるすべての参加者に有意義なサービスを考えるようになったりと、本当の意味で分野全体や会議の在り方を俯瞰できるようになったのが、大きな収穫と感じています。

IEEE の魅力は? IEEE WIE の魅力は?

IEEE で活動をしていると、他の組織の女性研究者や技術者とも知り合うことができ、皆さんから大きなパワーをもらえる点が魅力です。昔に比べると増えてきたとは言え、まだまだ女性研究者の数は少なく、私の勤務する大学でも女性教員は学科に $1\sim2$ 名。でも、会員数も多く幅広い分野をカバーしている IEEE なら多くの人と繋がることができます。特に WIE で活躍されている方々は前向きで快活な人が多いので、良い刺激になります。研究の話はもちろん、プライベートな話までできるのはとても楽しいですね。良い繋がり、良い仲間ができたと嬉しく思っています。

また学会運営などの活動を通して、性別や年齢、出身や所属を問わず、 多様な人々と濃く太い人間関係ができるのも嬉しいです。

今後、IEEE を通してやりたいことは?

女性技術者・研究者をもっと増やしていきたいですね。私の勤務校は 工科系単科大で、以前に比べると女子学生が増えたとは思いますが、ま だまだ少数ですし、学科によっては本当に少ないところもあります。ただ、 女子学生を増やそうと思うと、高校生にアプローチしたのではもう遅く、小 中学生に何かエンジニアリングに興味を持ってもらえるようなことを提案し ていかなくてはいけません。もちろん女子に限らず、未来の理工系を支え るような人材を育てる活動ができれば良いなと考えています。

また、せっかく素晴らしい会員がたくさん居る組織なので、共同研究や コラボレーションが生まれやすい仕組みを創ることができたら面白いだろ うと思うんですよね。そうした機会作りも考えていきたいです。

【メッセージ】

~ 女性研究者のロールモデルと なるような方を見つけたいなら ~

IEEE には、WIE だけでなく、YP (Young Professionals)という若い人たちとその支援者のグループなど、研究分野だけでなく、「自分はどういう人なのか」というグループ分けをしたコミュニティがあり、それぞれが楽しく活動しています。

研究というひとつの軸をフックに、プライベートでも繋がれるような仲間を作ることができるのが IEEE の魅力だと思います。特に女性研究者は身近にロールモデルを見つけられないことも多いのではと思いますが、IEEE の活動に参加することで様々な世代の方とお会いできるチャンスが増えます。ぜひ一緒に頑張っていきましょう!





研究で試作した装置 (ねじり剛性評価/挙動モニタリング)

URL

https://ieee-jp.org/about/voice.html

